

遺跡の情報発信と地域への還元 —パブリック・アーケオロジーからみる国際協力—

日時：2010年3月17日(水) 14:00～18:00
場所：東京文化財研究所 第一会議室(地階)

学問としての考古学が成立してから100年余り、常に変化を続ける社会のなかで、考古学は専門家のためだけの閉ざされた学問から開かれたものへと変わりつつあります。少数に限られてきた考古学への関心は既に一般市民の関心領域となり、考古学者は自分たちの活動する社会的文脈を意識する必要にせまられています。考古学者が直接的専門を越え、考古学教育、遺跡の公開、遺跡保護制度、観光などについて議論する場を提供してきたパブリック・アーケオロジーは、過去に対して多元的アプローチを試みるものとして展開してきました。

一方で、多くの考古学者は、その活動の場を海外へと広げています。こうした海外における考古学調査は、単に現地における貴重な文化遺産の発見に貢献するだけでなく、人類史の解明に努めてきました。また、現地との共同研究の枠組みで考古学調査を行うことにより、積極的に考古学分野における協力相手国の人材育成にも貢献してきた事例もあります。このように考古学者による海外での調査活動は、現在の文化遺産国際協力のなかで重要な意味を持ちつつあるのが現状です。

本研究会では、いくつかの事例から考古学と国家・世界との関係を考察しつつ、パブリック・アーケオロジーの様々な要素のひとつとして文化遺産国際協力をとらえることで、考古学調査の成果をどのように現地地域社会へ還元するのかについて検討します。

プログラム

* 同時通訳あり

- 14:00 開会挨拶
- 14:10 - 15:40 パブリック・アーケオロジー：その考察領域および21世紀における発展
・・・ティム・シャドラホール(ロンドン大学考古学研究所)
- < 15:40 - 15:55 休憩 >
- 15:55 - 16:55 ペルーにおけるパブリック・アーケオロジー：日本人考古学者の影響
・・・ダニエル・ダンテ・サウセド・セガミ(総合研究大学院大学)
- 16:55 - 17:35 カンボジアにおける考古発掘調査と地域への還元
・・・丸井雅子(上智大学)
- 17:35 - 18:00 質疑応答
- (13:30 - 13:50 まで同会場でコンソーシアム総会を開催いたします。)
*18:00 から懇親会をいたします(会費1000円)

お申込 / お問い合わせ

参加をご希望される方は、以下の必要事項をご記入の上、

2010年3月16日(火)までにコンソーシアム事務局までお申し込み下さい。

- お名前 ご所属
- 連絡先(メールアドレス/電話等) 懇親会出席の可否
(当日受付時に会費1000円をお預かりします)

文化遺産国際協力コンソーシアム事務局

E-mail: consortium@tobunken.go.jp
Tel: 03-3823-4841 / Fax: 03-3823-4027
〒110-8713 台東区上野公園 13-43
URL: <http://www.jcic-heritage.jp/>

